



ごあいさつ

たるみずしきょういくいんかい
垂水市教育委員会
まういくちやう さかもと ひろと
教育長 坂元 裕人

たるみずし けんとかごしまし たいがん いち かごしまけん さくらじま りんせつ
垂水市は県都鹿児島市の対岸に位置し、鹿児島県のシンボル桜島に隣接
しています。南には薩摩富士開聞岳、東には高隈山系、北には霧島連山を
のぞ けいしやう ち
望む景勝の地です。

がんぜん ひろ きんこうわん さる がじやうけいこく たかとうげ せんぼん ほんし
眼前に広がる錦江湾や、猿ヶ城溪谷、高峠や千本イチョウなど、本市に
ゆうだい しぜん ほうふ ゆた うみやま さち
は雄大な自然が豊富にあり、豊かな海山の幸をもたらしています。このよ
うに自然の恩恵を受けている本市におきましては、たいこ ひとひと く
太古より人々が暮らし
ており、その足跡は連綿と現在まで続いています。

はる じやうもん むかし くぬぎぼろ いちだいかいづか けいせい へいあんじだい
遙か縄文の昔には、柘原に一大貝塚が形成されていました。平安時代に
ふじわらのかずさのすけしげせい たるみずじやう きず れきし じやうほし たる
は、藤原上総介舜清により垂水城が築かれますが、これが歴史上初めて「垂
みず」の名が記された出来事とされています。

ご ぶ け せんごくじだい うつ か たるみず
その後、武家の世から戦国時代へと移り代わっていきますが、垂水でも
ひごし いしい など ゆうりくぶ したち ち あらそ ころそう く ひろ さいしやう
肥後氏、石井氏等の有力武士達が血で血を争う抗争を繰り広げます。最終
的に本城を居城とする伊地知氏が垂水に覇を唱えますが、その伊地知氏も
しまづし たらそ やぶ
島津氏との争いに敗れます。

えどじだい たるみず しまづいちもん たるみずしまづ け じやう かまち さか
江戸時代になると、垂水は島津一門である垂水島津家の城下町として栄
えます。あんえい ねん ひら おん くら ぶんこうかん おおん きやういくしや
安永5(1776)年に開かれた郷校「文行館」からは多くの教育者
や芸術家が育ちました。

ぼくまつ はんしゆしまづ なりあきら きんたい か せいさく しやうせいかん じ ぎやう てんかい
幕末の藩主島津斉彬は、近代化政策、集成館事業を展開しますが、ここ
たるみずの牛根でも集成館事業の一翼を担う造船事業が展開され、ほうずいまる まん
垂水の牛根でも集成館事業の一翼を担う造船事業が展開され、鳳瑞丸・万
ねんまる けんぞう
年丸が建造されました。

ご さつえいせんそう へ さつま ほん れつきやう しょくみんち か ふせ にほん
その後、薩英戦争を経た薩摩藩は、列強による植民地化を防ぐため日本
ひと ひとつにまとまり近代化を図るべく、雄藩の中心となり明治維新を成し遂
げます。このとき維新の中心となったのが、斉彬公に薫陶を受けた西郷隆
もり おおく ぼとしまち
盛と大久保利通でした。

さいごうたかもり いしん ちやうかく にな かか めいじ ねん せいへん やぶ
西郷隆盛は維新の中核を担ったにも関わらず、明治6年の政変に敗れ、
おおく ぼとま と わ げ や しんせいふ せいさく ふまん も さいごう した
大久保と袂を分かち、下野します。新政府の政策に不満を持ち、西郷を慕
かごしま しぞく めいじ ねんせいなんせんそう ひ お たるみず
う鹿児島士の土族たちは、明治10(1877)年西南戦争を引き起こし、垂水か
らもたくさんの人々が従軍しました。

さいごうたかもり ひと われわれ かごしまけんじん いま ふか えいきやう あた
西郷隆盛の人となり、我々鹿児島県人に今なお深い影響を与えていま
みなさま ごしやうち へいせい ねん ほうそう たいが
す。皆様御承知のように、平成30年に放送されるNHK大河ドラマでは西
郷隆盛が題材としてとりあげられるとのことであり、鹿児島県人の期待は
たいへんたか
大変高まっていると言えるでしょう。

ほんしよ わたしたち きやうど たるみず さいごうたかもり かか
本書は、私達の郷土垂水と西郷隆盛との関わりについてまとめたもので
す。本書をきっかけに郷土と西郷隆盛について学ぶ一助となれば幸いです。

目次

さいごうたかもり 西郷隆盛について	3
西郷隆盛と牛根地区	5
西郷隆盛と垂水地区	7
西郷隆盛と新城地区	9

